

学級活動（人権）学習指導案

2年A組 28名

指導者



1 主題 共に生きる

2 主題設定の理由

本学級は28名で構成されている。中学校に入学当初、新しい環境に適応することに時間のかかる生徒が多いように感じた。そこで、一人一人と向き合ってみると、それぞれが自分の考えをもっており、周りの人を大切にしたいという思いをもっているものの、自分の感情をうまく言語化・態度化することが苦手な生徒が多い。どの生徒も勉強をしたいという意欲はあるが、教室で級友と一緒に授業を受けることが難しい生徒がいる。「周りの目が怖い」「何か言われている気がする」と自分に自信がもてずにいる一部の生徒にとっては教室が「安心できる場所」ではない。学校に登校しづらい生徒を支援する方法として、別室で一人一台端末を使い、リモート授業を行うことを提案すると少しずつ別室登校ができるようになってきている。

2年生の人権学習では、「誰もが安心できる学級づくり」をテーマに掲げ、まず、級友に対する言動を見直す学習をした。そこで、「あったか言葉とちくちく言葉」の学習をすると、自分が言われて嫌な言葉は思いついたが、相手の立場で考えたり、相手を傷付けないように思いやる言葉を考えたりすることが難しかった。同じ言葉であってもあったか言葉にもちくちく言葉にもなるものがあることから、ある生徒からは「発言するのが怖くなった」との意見が出た。その後、人とのつながりの大切さを感じてもらいたいと考え、サモアでのJICAの活動についての人権講演会を聞いて、「どれだけお金があっても友達や愛は買えないことに気付きました」と生徒から感想がでた。海外の生活と自分の生活を重ねて考えることができた。講演から日本で暮らす外国人の生活をきっかけにすべての人が暮らしやすい町を考え、様々な人の立場で考える活動を行い、多様性を認め合うきっかけをつかむことができた。2学期では、高齢者疑似体験を通して、自分たちの身近に暮らしている高齢者について理解を深めた。視野の狭さや体の不自由さなどを装具によって体験し、高齢者それぞれに合わせた支援が必要なことを知った。現在、学習している災害時における人権問題では、災害発生時の避難所生活において、普段の生活と違い、様々な人が同じ避難場所で生活するため、それぞれに合わせて配慮や支援が必要になることを学んでいる。

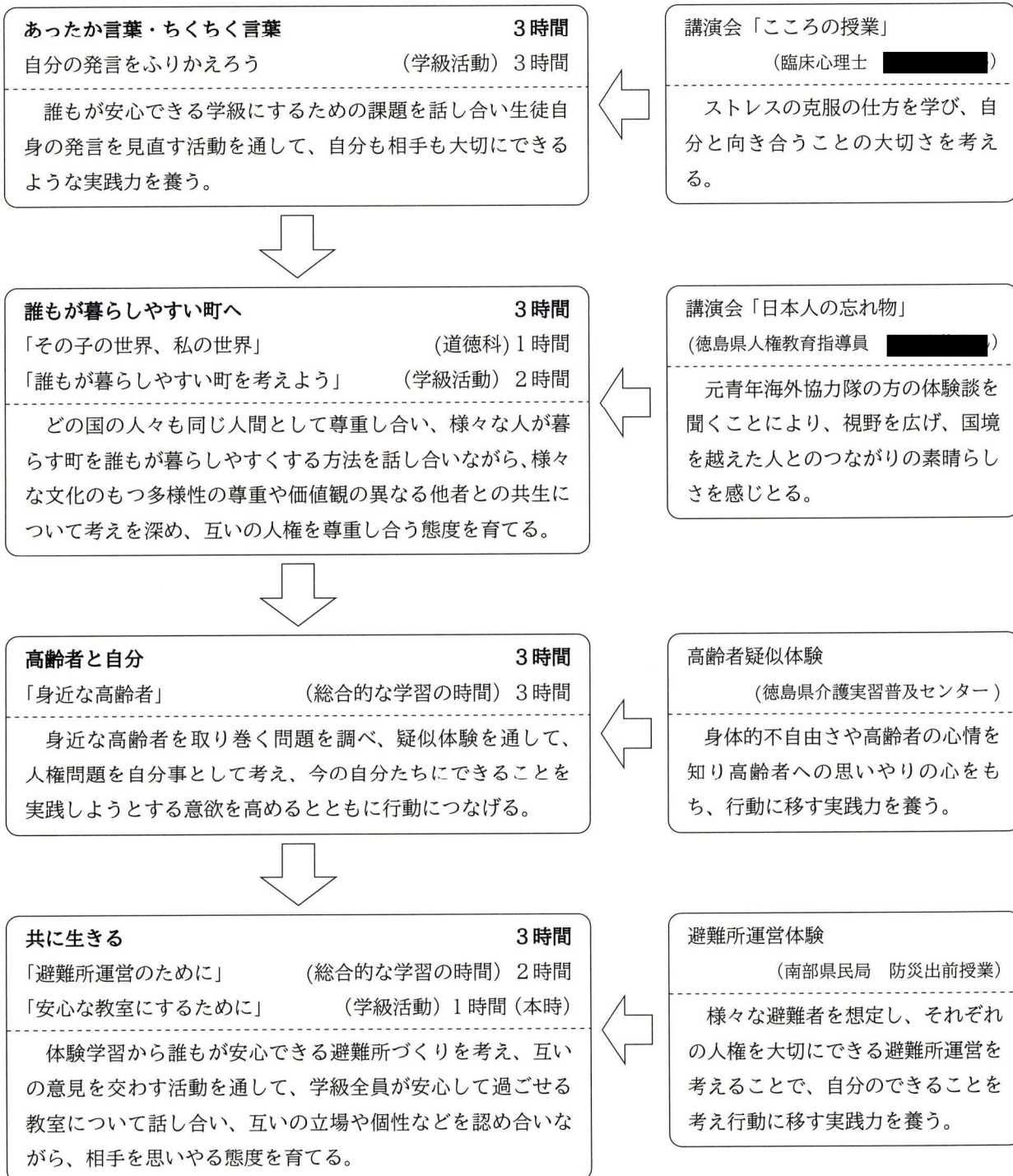
人権学習を進める中で、生活アンケートの結果や日常会話から別室登校をしている生徒のことを気にかける生徒が増えてきているように感じられる。休んでいる生徒の机のプリント類を自主的にファイルに入れることができるようになり、掃除の時間や文化祭でのグループ活動の時に別室に行き、優しく声をかけることができる生徒もいる。しかし、そのような行動に移せている生徒は一部であり、誰もが安心できる教室の雰囲気には至っていない。

そこで、すべての人が安心できる避難所を運営していく学習を進めていく中で、様々な人の立場で考え、他者への思いやりの態度を養い、学級全員が安心でき、人権を尊重し合える学級づくりをしたいと考え、本主題を設定した。

3 ねらい

様々な人との関わりを通して、自他の人権を尊重し合い、共によりよく生きるために自ら行動しようとする実践力を養う。

4 指導計画



5 本時の学習

(1) 目 標

誰もが安心できる避難所づくりを通して、仲間の意見を受けとめたり、自分の意見を伝えたりすることで、学級全員が安心して過ごせる教室について考え、互いの立場や個性などを認め合い、相手を思いやり、生活していこうとする意欲を高める。

- | | |
|----------------|-------------|
| (2) 普遍的な学習のテーマ | 共に生きる |
| 個人人権課題名 | 災害時における人権問題 |

(3) 展 開

学習活動	指導上の留意点
1 前時の学習を振り返る。	○避難所生活での課題や安心できる避難所をつくるために必要なことを想起させる。
2 発表内容から共通していることを考える。	○すべての人が安心できる避難所にするために相手を思いやる気持ちが大切なことに気付かせる。 ①②
学級全員が安心して過ごせる教室にするために必要なことはなんだろう	
3 安心して過ごせる教室にするために 必要なことを考え、発表する。	○安心して過ごせる教室とはどのような教室か考えさせ、級友とのつながりを意識し、自分だけでなく級友も過ごしやすい教室を考えさせる。 ①②
4 本時のまとめをする。	

(4) 評 価

- ・ 互いの立場や個性などを認め合い、相手を思いやり、生活していこうとする意欲を高めることができたか。(価値的・態度的側面)①
- ・ 仲間の意見を受けとめ、自分の意見を伝えることができたか。(技能的側面)②